目次

はしがき
凡例
昭和二年～五年……一
昭和六年～一〇年……八
昭和一一年～一五年……二四
昭和一六年～二〇年……三四
昭和二一年～二五年……五五
昭和二六年～三〇年……六七
昭和三一年～三五年……八〇
昭和三六年～四〇年……九三
昭和四一年～四五年……一〇四
昭和四六年～五〇年……一二四
昭和五一年～五五年……一五三
昭和五六年～六〇年……一八七
昭和六一年～六三年……二一三
［付録］明治・大正期編……二三〇
索引
一　著者・編者名索引……二三五
二　書名索引……二四四
三　分類別索引……二七一

昭和二年

1 **万葉集**（万有文庫）

2 「万葉集解題」と、巻一から巻二十にかけての、代表的な歌についての口語訳。

3 河原萬吉訳代表　4 万有文庫刊行会　5 新書判（小）　6 六〇七頁。　7 昭和二年二月二十日

1 **万葉読本**

2 第一部「万葉史抄」。第二部は巻一全歌を解説する。

3 武田祐吉　4 古今書院　5 四六判　6 一二三頁。　7 昭和二年四月十日

1 **万葉漫筆**

2 「万葉集の価値」「万葉集なかりせば」「奈良朝文明の宝庫」「万葉集と天平時代」などの随想二五項目。他に訓み、一〇五項目、書誌「東歌雑記」「万葉的運動に就いて」「桂本万葉に関する一発見」等五二項目に渉る。

3 佐佐木信綱　4 改造社　5 四六判　6 三九八頁。　7 昭和二年八月十二日

1 **新訓万葉集**（上・下巻）

2 上巻では「万葉集概説」（題号・編者・成立年時・各巻一覧・部立・排列・歌体歌調・歌数・用字）を総論として説く。以後、各論で「上巻」は巻一から巻十まで、「下巻」は巻十一から巻二十までを訓読する。○原文の文字の意義を生かす方法で、万葉集訓法に新しい指針を示した。

3 佐佐木信綱　4 岩波書店　5 A6判（文庫判）　6 上巻、四四七頁。下巻、三五四頁。　7 昭和二年九月五日～二年十月十日

1 **枕詞の研究と釈義**

2 第一編「枕詞の研究史」（序説、古人研究の回顧、副次研究の起源及その経過等の二〇項を解説）、第二編「枕詞の研究（その一）」（枕詞の名称の沿革、枕詞の定義等の六章）、第三編「枕詞の研究（その二）」（記紀時代の枕詞、記紀時代の枕詞と創始者等の五章）、「年表索引類」、第四編「枕詞の釈義」（あいうえお順に枕詞を並べて解説）

3 福井久蔵　4 不二書房　5 菊判　6 六二四頁　7 昭和二年十月十日（新訂増補は昭和三十五年二月十日、有精堂より）

1 **大和万葉地理研究**（新釈和歌叢書・編外）

2 「吉野宮瀧」「奈良思之岳その他」「飛鳥川を中心とし

1　**上代日本文学史**

2　本書の万葉集関係の記述は、第二編の第三章～第六章で集中的になされている。その標題は「万葉集総説」「飛鳥藤原の宮時代の歌」「奈良朝初期の歌謡」「奈良朝中期の歌謡」となっており、第三章で当代の文化情勢・祭政情況を概観、第四章以下で万葉の作家と作品に焦点をあてて説く。

3　武田祐吉　4　博文館　5　菊判　6　三八二頁　7　昭和五年十月五日

1　**大和万葉古蹟巡礼**

2　「宮滝の冬」「大原の里について」「三輪より初瀬へ」等十六篇よりなる万葉古蹟考。

3　辰巳利文　4　紅玉堂書店　5　四六判　6　一一一頁　7　昭和五年十月二十日

昭和六年

1　**万葉植物考**

2　一五七種の万葉植物を草類・木類・竹類にわけ、その各に属する植物をさらに五十音順に配して解説し、関係作品をあげ、多くの挿図を添える。

3　豊田八十代　4　古今書院　5　菊判　6　二二三頁　7　昭和六年三月三日

1　**万葉集新釈**（二冊）

2　巻の順序に従って歌を選び、註解を加える。なお、上巻の巻頭に「巻々の解説」を、巻末に「語句索引」「番号索引」を、下巻の巻末に「万葉集に於ける男女の言葉」「万葉集書目解題」「語句索引」「地名人名索引」「事項索引」「番号索引」を添える。

3　沢瀉久孝　4　星野書店　5　菊判　6　上巻、三六二頁。索引、二二頁。下巻、三〇六頁。索引、五六頁。　7　昭和六年三月五日～九年四月二十日

1　**万葉学論纂**

2　第一編「文献学的研究」（成立に関する研究、山田孝雄他三名。書史学的研究、和田英松他二名）。第二編「文学的研究」（文学論的研究、吉澤義則他一一名、文学史的研究、高野辰之、他五名）。第三編「人文学的研究」（文化史的研究、高楠順次郎、他一名。人類学及び社会学的研究、西村真次他一名。民族学的研究、折口信夫他一名。歴史及び地理的研究、喜田貞吉他二名）。第四編「言語学的研究」（用字の研究、鴻巣盛廣他二名。用語の研究、春日政治他八名）、第五編「植物学的研究」（植物の研究、白井光太郎他二名）。その他、佐佐木信綱による「万葉集古写本攷」を付載。

3　佐佐木信綱編　4　明治書院　5　小A5判　6　四四八頁　7　昭和六年三月八日

1　**万葉集研究年報**　第一―一一輯

2　一年間に発表された文献を、「一、単行本」「二、雑誌」「三、関係文献」「四、雑」（一―五輯までは三、四を合わせて雑となっている）の四部に分類し、それぞれを細分し収載。収載年度は、第一輯―昭和五年度、第二輯―昭和六年度、第三輯―昭和七年度、第四輯―昭和八年度、第五輯―昭和九年度、第六輯―昭和十年度、第七輯―昭和十一年度、第八輯―昭和十二年度、第九輯―昭和十三年度、第十輯―昭和十四年度、第十一輯―昭和十五年度。編者は、石井庄司、遠藤嘉基（第二輯から）、五味保義、佐伯梅友、中島光風、藤森朋夫、森本健吉（第二輯から）、森本治吉の八氏。

○書籍、雑誌、新聞、講演会、講習会などから、広くかつ能うかぎりの文献をとりあげ、詳細に記載。主なるものには寸評を加える。万葉研究に寄与するところ大で、当時の万葉研究の動向と質の高さを知ることができる。復刻版（平成元年　和泉書院）が刊行されている。

3　万葉三水会編　4　岩波書店　5　菊判　6　第一輯、八〇頁。執筆者名索引六頁、以下おなじ。第二輯、一三四・八頁。第三輯、一五〇・一二頁。第四輯一六九・一二頁。第五輯、一四二・一四頁。第六輯、一四四・一四頁。第七輯、一六七・一四頁。第八輯、一六二・一四。第九輯、一三八・一二頁。第十輯、一三三・一〇頁。第十一輯、一五二・一三頁。　7　昭和六年五月十五日～昭和十七年四月十五日

1　**校本万葉集**

2　第一冊は「本書編纂事業の由来及経過、本書編纂の方針、本書の体裁、本書使用上の注意事項、校異を出さざる異体字並に通用字の表、万葉集諸本解説、万葉集諸本系統の研究、万葉集注釈書の研究、万葉集研究史」より成る。第二冊～第九冊は万葉集巻第一～二十までの本文訓・諸説についての校本。第十冊は万葉集諸本輯影の巻で、その内容は「古写本および古刊本」「名家の書写・校合・書入に係る諸本」「類聚・仮字書・抄出・改訂に係る諸本」「万葉集を引用せる書籍の古